

令和8年度（2026年度）

京都市立芸術大学音楽学部入学試験 試験内容及び課題曲

第一次試験（音楽学専攻以外の専攻）

作曲専攻	1
指揮専攻	3
ピアノ専攻	3
弦楽専攻	4
＊ヴァイオリン	4
＊ヴィオラ	5
＊チェロ	5
＊コントラバス	6
管・打楽専攻	7
＊フルート	7
＊オーボエ	7
＊クラリネット	7
＊ファゴット	7
＊サクソフォン	7
＊ホルン	7
＊トランペット	8
＊トロンボーン	8
＊バス・トロンボーン	8
＊ユーフォニアム	8
＊チューバ	8
＊打楽器	8
打楽器（A）	9
打楽器（B）	9
声楽専攻	9
＊伴奏用楽譜について	10

第一次試験（音楽学専攻）

・英語	11
・事前提出物	11

第二次試験（音楽学専攻以外の専攻）

1 試験内容	12
2 副科ピアノについて（作曲、指揮、弦楽、管・打楽、声楽）	12

第二次試験（音楽学専攻）

口頭試問	14
------------	----

令和 8 年度（2026 年度）

音楽学部入学試験 第一次試験（音楽学専攻以外の専攻）

作曲専攻

（第 1 日）1. 和声法（試験時間各 2 時間 30 分）

A バ ス課題：与えられたバスに和声をつけ、4 声体とすること。

B ソプラノ課題：与えられたソプラノに和声をつけ、4 声体とすること。

両課題とも記譜は次の a または b のいずれかを選択すること。

a ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

b ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

実施記譜例（a、b による記譜）は別記のとおり。

2. 作品提出

自作品を 1 曲以上、試験当日に提出すること。なお、提出された作品は返却しないので、コピー譜を提出すること。

（第 2 日）3. 二声対位法（試験時間 2 時間）

与えられた全音符の定旋律に対旋律をつくること。対旋律は、2 分音符、4 分音符、8 分音符と移勢（シンコペーション）を含む、いわゆる自由（華麗）対旋律によるものとする。

解答は、次の（1）～（6）の 6 通りが必要である。

（1）：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。

（2）：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。

（3）：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。

（4）：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。

（5）：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。

（6）：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜移調してもよい。

記譜は次の a または b のいずれかを選択すること。

a ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

b ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

実施例（b による記譜）は別記のとおり。

4. 作曲（試験時間 4 時間 30 分）

与えられた素材により器楽曲を作曲すること。

（第 3 日）5. 面接

各日の試験内容、及び提出作品について等の試問。

◎作曲専攻（第 1 日）和声法の実施例

*課題 {過去の出題（ソプラノ課題）より冒頭 2 小節}



*記譜 a による実施例

Andante (♩=72ca.)

*記譜 b による実施例

Andante (♩=72 ca.)

◎作曲専攻（第2日）二声対位法の実施例

*記譜 b による実施例

定旋律

実施例

1

2

3

4

5

6

指揮専攻

・和声法（試験時間 3 時間）

与えられたバスとソプラノの旋律に和声をつけ、4 声体とすること。

（記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。）

・実技試験

1 下記の楽曲の指揮をすること。演奏箇所は、当日指定する。（演奏は二台ピアノによる）

（ア）L. v. Beethoven：交響曲 第 1 番 ハ長調 作品 21 より第 1 楽章、第 4 楽章

（イ）P. I. Tchaikovsky：弦楽のためのセレナーデ 作品 48 より第 2 楽章 ワルツ

上記、出版社は自由とする。

2 下記の楽曲による総譜視奏（スコアリーディング）

（ア）L. v. Beethoven：交響曲 第 7 番 イ長調 作品 92 より第 2 楽章

（イ）初見視奏（当日提示する管弦楽曲）

3 既に習得している楽器（ピアノ、弦楽器、管打楽器、ハープのうちいずれか 1 つ）若しくは声楽を演奏すること。その場合、楽器は各自持参すること。ただし、コントラバス、ハープについては、楽器を持参できない場合は、本学で用意するので、楽器を持参するか否かをインターネット出願登録時に入力すること。マリンバについては、本学で用意する楽器を使用すること。

なお、声楽を除きすべて無伴奏とし、演奏曲目をインターネット出願登録時に入力すること。伴奏者は本学で用意する。ピアノで受験する場合も、第二次試験の副科ピアノ演奏を受験しなければならない。

※声楽選択者の伴奏用楽譜について

声楽を選択する場合、伴奏用楽譜を出願の際 1 曲につき 2 部ずつ提出すること。

・ 1 ページの大きさは A4 判とし、各ページが全開するよう横一連に綴じること。

・ 表紙には曲名、調、氏名を明記すること。（表紙の右上部分には何も書かないこと。）

・ 印刷した Web 入学志願票等の必要書類とともに封筒に入れ、出願期限までに「簡易書留・速達」で郵送すること。

4 面接を行う。

ピアノ専攻

下記の楽曲を演奏すること。

（第 1 日）1 ロマン派以降の作品から、練習曲以外の任意に選んだ作品。

（第 2 日）2 任意の作曲家による練習曲を 2 曲選択し、第 1 日目に本人による抽選で、演奏する 1 曲を決定する。

3 J. Haydn または W. A. Mozart または L. v. Beethoven の任意のソナタ 1 曲全楽章を選択し、第 1 日目に本人による抽選で、演奏する（1 つの、あるいは複数の）楽章を決定する。

※注意 (1) いずれも暗譜演奏すること。

(2) 繰り返しは自由。但し、ソナタ形式の提示部については繰り返ししないこと。

(3) 拡張奏法や内部奏法を含む作品及び自作曲は除く。楽譜の入手が困難な作品については楽譜の提出を求める場合がある。

(4) 演奏するすべての曲の作曲者、作品番号、楽章、調名をインターネット出願登録時に入力すること。

(5) 1 について、7 分以上 12 分程度までとする。

- (6) 1 について、変奏曲の抜粋は認めない。
- (7) 2 について、同じ作曲家による 2 曲を選択することも、異なる作曲家による 2 曲を選択することも可とする。
- (8) 時間の都合上カットすることがある。

弦楽専攻

下記の課題を演奏すること。

- ※注意**
- (1) 選択した曲目及び調名をインターネット出願登録時に入力すること。
 - (2) 全ての課題は伴奏なしで暗譜演奏すること。(繰り返し及びダ・カーポはしない。)
 - (3) コントラバスについてのみ、楽器を持参できない場合は本学で用意するので、楽器を持参するか否かをインターネット出願登録時に入力すること。
 - (4) 時間の都合上カットすることがある。

*ヴァイオリン

(第 1 日) 下記の中から、いずれか 1 曲を選択し、その第 1 楽章と第 2 楽章 (ただし Lalo のスペイン交響曲においては第 1 楽章と第 4 楽章) を演奏すること。

M. Bruch : 協奏曲 第 1 番 ト短調 作品 26

A. Dvořák : 協奏曲 イ短調 作品 53

(Adagio ma non troppo から Finale の前までを第 2 楽章とする。)

E. Lalo : スペイン交響曲 ニ短調 作品 21

F. Mendelssohn : 協奏曲 ホ短調 作品 64

N. Paganini : 協奏曲 第 1 番 ニ長調 作品 6

(オリジナル版により演奏すること。カデンツァはなし。)

C. Saint-Saëns : 協奏曲 第 3 番 ロ短調 作品 61

J. Sibelius : 協奏曲 ニ短調 作品 47

P. Tchaikovsky : 協奏曲 ニ長調 作品 35

(第 1 楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Vieuxtemps : 協奏曲 第 4 番 ニ短調 作品 31

H. Vieuxtemps : 協奏曲 第 5 番 イ短調 作品 37

(カデンツァはなし。Adagio から Allegro con fuoco の前までを第 2 楽章とする。)

H. Wieniawski : 協奏曲 第 1 番 嬰ヘ短調 作品 14

(第 1 楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Wieniawski : 協奏曲 第 2 番 ニ短調 作品 22

(第 2 日) 1 C. Flesch : Scale System より No.5、6、7、8、9、10 ただし No.6~No.9 は最初の 4 小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6、7、8、9、10 は 4 分音符単位 (16 分音符 4 個分) で、スラーをかけることとする。

○速度は No.5 はメトロノームで 4 分音符=80 以上、No.6~10 は 8 分音符=60 以上で演奏すること。

- 2 下記の中から、いずれか 1 曲を選択し、演奏すること。

P. Rode : 24Caprices

J. Dont : Etüden und Capricen 作品 35

N. Paganini : 24Caprices 作品 1 (ただし 17 番冒頭及び 24 番の繰り返しはすること。)

* ヴィオラ

- (第 1 日) 下記の中から、いずれか 1 曲を選択し、演奏すること。

Carl Stamitz : 協奏曲 ニ長調 作品 1 第 1 楽章及び第 2 楽章 (ヘンレ版を使用すること。カデンツァを除く。)

A. Hoffmeister : 協奏曲 ニ長調 第 1 楽章及び第 2 楽章 (ヘンレ版を使用すること。カデンツァを除く。)

M. Reger : Suite 作品 131d No.1 第 1 楽章及び終楽章

- (第 2 日) 1 C. Flesch : Scale System より No.5、6、7、8

ただし No.6、7、8 は最初の 4 小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6、7、8 は 8 分音符単位 (16 分音符 2 個分) で、スラーをかけることとする。

○速度は任意である。

- 2 B. Campagnoli : 41 Caprices 作品 22 より任意の 1 曲を選択し演奏すること。(版は自由とする。)

* チェロ

- (第 1 日) 任意の協奏曲より第 1 楽章または最終楽章を演奏すること。

- (第 2 日) 1 J. Loeb の Gammes et arpèges (Billaudot 版) を参照のうえ、下記 (a) から (f) までの課題を演奏すること。調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

(a) 4 オクターヴにわたる単音の音階 (スラーは 1 弓 8 音 $\text{♩}=80$ 以上)

(b) 4 オクターヴにわたる単音分散 3 度の音階 (スラーは 1 弓 8 音 $\text{♩}=80$ 以上)

ハ短調の例

Do mineur
C moll
C minor



(c) 4 オクターヴにわたるアルペジオ (スラーは 1 弓 6 音 $\text{♩}=60$ 以上)

(d) 2 オクターヴにわたる重音 3 度の音階 (スラーは自由 $\text{♩}=60$ 以上)

(e) 2 オクターヴにわたる重音 6 度の音階 (スラーは自由 $\text{♩}=60$ 以上)

(f) 2 オクターヴにわたる重音 8 度の音階 (スラーは自由 $\text{♩}=60$ 以上)

(注) (d) (e) (f) の音階を始める音域は任意とする。また運指は全て自由とする。

- 2 J. Duport : Etudes より任意の 1 曲を演奏すること。

※上記全ての課題曲の版は自由とする。

*コントラバス

(第1日) 任意のソナタの第1楽章及び第2楽章または協奏曲の第1楽章を演奏すること。

(第2日) 1 下記 (a) ~ (d) までの音階及びアルペジオの課題を演奏すること。

2 J.Hrabě 86ETUDES for STRING BASS Book1 より 25 番を演奏すること。

(Carl Fischer版を使用すること。フィンガリング、ダイナミックスは自由とする。)

(a)



(b)



(c)



(d)



管・打楽専攻

以下の楽曲を演奏すること。

- ※注意 (1) 下記の第1日の暗譜演奏の指示のない課題曲の楽譜は各自持参すること（本学で楽譜は用意しない。）。
- (2) 下記の第2日の楽曲は、いずれも暗譜演奏すること（繰り返しはしない。）。
- (3) 伴奏者は、いずれも本学において準備するので、同伴しないこと。
- (4) 時間の都合上カットすることがある。

*フルート

- (第1日) J. Andersen : 24 Etudes for Flute op.21 より、第1番、第4番、第6番、第9番、第13番、第15番、第24番の中から当日指定する曲（版の指定なし）
- (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第1番 ト長調 K.313 (K6.285C) 第1楽章（カデンツァを除く。）

*オーボエ

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes op.31 (Gerard Billaudot 版または全音楽譜出版社) より第4番、第8番、第9番、第19番、第23番、第24番、第30番、第31番、第34番、第37番、第42番、第43番の中から当日指定する曲
- (第2日) J. Haydn : 協奏曲 ハ長調 Hob. Vllg : C1 第1、第2楽章（Breitkopf 版）

*クラリネット

- (第1日) 1 R. Eichler : Scales for Clarinet (KUNITACHI COLLEGE OF MUSIC) の各調1・2番を範囲とし、当日指定する調を暗譜で演奏すること（レガート、スタッカートのいずれかの指示をします。）
- 2 C. Rose : 32 Etudes (Alphonse Leduc 版) より第7番、第8番、第11番、第13番、第18番、第20番、第23番、第26番、第29番、第32番の中から当日指定する曲
- (第2日) Carl Maria von Weber : Concertino Es-Dur 作品26

*ファゴット

- (第1日) J. Weissenborn : Fagott Studien 作品8第2巻より第1番から第15番までのの中から当日指定する曲（繰り返しなし、版の指定なし）
- (第2日) G. P. Telemann : Sonata f-moll 第1楽章、第4楽章（繰り返しなし、版の指定なし）

*サクソフォン

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes pour tous les saxophones (Alphonse Leduc 版) より
- ①第5番、第9番、第17番、第21番、第29番の中から1曲（当日指定）
- ②第12番、第16番、第22番、第30番、第52番の中から1曲（当日指定）
- (第2日) A. Grazounov : Concerto en mi bemol (Alphonse Leduc 版) 冒頭から練習番号第16番まで演奏すること。

*ホルン

- (第1日) C. Kopprasch : Sixty Selected Studies (C. Fischer 版、繰り返しなし) より第7番、第12番、第13番、第15番、第16番、第19番、第22番、第23番、第24番、第25番、第27番、第28番の中から当日指定する曲
- (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第4番 変ホ長調 KV.495 より第1楽章（カデンツァなし）、第2楽章、及び第3楽章（第99小節目まで）

*トランペット

- (第1日) 1 E. F. Goldman : Practical Studies for the Trumpet より第 19 番 Cadenzas の中から当日指定する曲 (C. Fischer 版)
- 2 OSKAR BOEHME : 24 MELODIC STUDIES in all tonalities Opus20 より第 1 番～第 16 番の中から当日指定する曲
- なお、曲を演奏する前に、それぞれの調の音階をリピートありで一息で演奏する事。最初はテヌートで、リピート後は最後の分散和音までスタッカートで一息で演奏すること。

(第2日) G. Alary : Morceau de Concours

*トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第 10 番、第 13 番、第 15 番、第 16 番、第 17 番、第 18 番、第 19 番、第 20 番、第 21 番、第 25 番、第 39 番、第 40 番、第 42 番の中から当日指定する曲 (繰り返しなし)
- (第2日) F. David : Konzertino 変ホ長調 Op.4 第 1 楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏)

*バス・トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第 11 番、第 17 番、第 20 番、第 21 番、第 25 番、第 26 番、第 32 番の中から当日指定する曲 (繰り返しなし。第 17 番はオクターブ下で演奏すること)
- Ostrander : Melodious Etudes for Bass Trombone (C. Fischer 版) より第 6 番、第 10 番、第 16 番の中から当日指定する曲
- (第2日) F. David : Konzertino 変ロ長調 第 1 楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏)

*ユーフォニアム

- (第1日) 1 J. B. Arban: Fourteen Characteristic Studies より第 1 番、第 2 番、第 3 番、第 4 番の中から当日指定する曲 (版の指定無し)
- 2 Marco Bordogni: Melodious Etudes for Trombone より第 2 番、第 3 番、第 4 番、第 5 番、第 6 番、第 7 番の中から当日指定する曲 (版の指定無し)
- (第2日) P. V. De la Nux : Solo de Concours pour Trombone et Piano (Leduc 版)、Concert Piece for Trombone or Baritone and Piano (Southern music company 版) (どちらの版でもよい)

*チューバ

- (第1日) 1 C. Kopprasch : 60 Selected Studies より第 5 番、第 7 番、第 8 番、第 9 番、第 10 番、第 11 番、第 12 番、第 13 番、第 14 番、第 15 番の中から当日指定する曲
- 2 M. Bordogni : 43 Bel Canto Studies より第 2 番～第 10 番の中から当日指定する曲
- (第2日) W. S. Hartley : Suite for Unaccompanied Tuba (Elkan-Vogel 版) より第 1 楽章、第 2 楽章、第 4 楽章

*打楽器

打楽器 (A)、打楽器 (B) のいずれかを選択して演奏すること。(A、B いずれを選択したか、また A については選択した曲名を願書に明記すること。小太鼓については立奏、座奏いずれも可。両日とも小太鼓およびスタンドは持参すること。)

打楽器 (A)

- (第1日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm より、第6番、第15番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag) より、第25番、第28番、第29番、第30番の中から当日指定する曲
(ウ) 下記の楽曲の中から一曲を選択し、本学で用意するマリンバで演奏すること。
版の選択は任意。暗譜で演奏すること。
J. S. Bach : ソナタ 第1番 ト短調 BWV1001
J. S. Bach : パルティータ 第1番 ロ短調 BWV1002
J. S. Bach : ソナタ 第2番 イ短調 BWV1003
J. S. Bach : パルティータ 第2番 ニ短調 BWV1004 より Ciaccona
J. S. Bach : ソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005
J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006

(第2日) 第1日目の(ウ)に同じ

打楽器 (B)

- (第1日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm より、第6番、第15番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag) より、第25番、第28番、第29番、第30番の中から当日指定する曲
(ウ) Siegfried Fink : Trommel-Suite より Intrada Toccata Mista Marcia (暗譜で演奏すること。)
(エ) J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006 より Bourée Gigue (本学で用意するマリンバで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。)

(第2日) 第1日目の(ウ)に同じ

声乐専攻

- (第1日) 自由曲：歌曲あるいはアリア1曲(宗教曲も含む)。演奏時間は4分程度とする。
ただし、課題曲以外のものを選ぶこと。

(第2日) 課題曲：下記の15曲の中から各自4曲を選ぶこと。その中から当日2曲を指定する。

- | | | |
|------|--------------|-------------------------|
| (1) | L.Mancia | Star vicino |
| (2) | G.Torelli | Tu lo sai |
| (3) | A.Scarlatti | Già il sole dal Gange |
| (4) | A.Scarlatti | Se tu della mia morte |
| (5) | A.Scarlatti | Le violette |
| (6) | F.Gasparini | Caro laccio |
| (7) | A.Caldara | Sebben, crudele |
| (8) | G.F.Händel | Ah, mio cor |
| (9) | A.F.Tenaglia | Begli occhi, merce' |
| (10) | V.Bellini | Vanne, o rosa fortunata |
| (11) | S.Donaudy | Vaghiissima sembianza |
| (12) | W.A.Mozart | An Chloe |
| (13) | F.Schubert | Frühlingsglaube |

- (14) 小松耕輔 母
(15) 信時 潔 北秋の(「沙羅」より)

- ※注意**
- (1) 試験の際の演奏は暗譜とする。
 - (2) 曲はすべて原語で演奏することが原則であるが、慣例として認められている訳語は可。
 - (3) 自由曲で、オペラ及びオラトリオ等のアリアは原調によるものとするが、慣例として移調されて歌われるものはその限りではない。
 - (4) 選択した曲名、作曲者名及び調性をインターネット出願登録時に入力すること。(提出後の調性の変更は認めない。)
 - (5) 自由曲及び課題曲については、時間の都合上、カットすることがある。
 - (6) 伴奏者は、両日とも本学において準備するので、同伴しないこと。

***伴奏用楽譜について**

自由曲及び課題曲のためのピアノ伴奏用楽譜は、各自選択した調性の楽譜を、印刷したWeb入学志願票等の必要書類とともに1曲につき2部ずつ出願期限までに「簡易書留・速達」で郵送すること。
(自由曲2部、課題曲8部、計10部)

【注意事項】

- (1) 1 ページの大きさは、A4 判 (297mm×210mm) にすること。
- (2) 各ページが全開するよう横一連に綴じること。その際、テーピングにはマスキングテープを使用すること(セロテープは不可)。
- (3) 表紙に第1日・第2日の別、曲名、調性、氏名を明記すること。
- (4) 台紙として、厚紙などの別紙は貼り付けないこと。また、表紙の右上部分には何も書かないこと。

(3)の記入例

伴奏用楽譜表紙

第2日 課題曲
G. Giordani
Caro mio ben (〇〇調)
芸大 和音

令和 8 年度（2026 年度）

音楽学部入学試験 第一次試験（音楽学専攻）

・英語（試験時間 1時間40分、300点）

英語の長文を読んだうえで、自分の考えを日本語で論じるなど、小論文的な要素を含む。

英和・和英辞書の持込可、電子辞書の持込可。ただし、通信機能のないものに限る。

・事前提出物（与えられた課題に関する研究レポート、100点）

課 題：自分の関心に沿って、音楽や音、あるいはそれらの文化について具体的な問いを立て、調査・分析・考察等を行ったうえでまとめなさい。具体的な問いを立て、結論を提示すること。なお、本文中で図表や譜例等を用いても構わない。

様 式：A4 サイズ（原稿の向きは縦、文字は横書き。上下左右に余白 3cm 程度設定すること）、明朝体（日本語）、11 ポイント、40 字×30 行、PDF 形式（手書きで作成せず、パソコン等を使用すること）

文 字 数：2,000 字程度（図表、譜例、注、参考文献は字数に含まない）

＜PDFファイルの提出方法＞

- ・Dropbox のファイルリクエスト機能により提出すること。

ファイルをアップロードするためのリンクを、令和 8 年 2 月 12 日（木）以降に出願時に登録しているメールアドレスに送付します。

メールで送付したリンクを開くとアップロード画面に移るので、提出したい PDF ファイルを選択してアップロードしてください。

なお、PDF ファイルのアップロードにあたり、Dropbox のアカウントを作成したり、アプリをインストールしたりする必要はありません。

メールが 2 月末までに届かない場合は、電話等により教務学生課入試担当まで問い合わせること。

- ・PDF ファイルのタイトルは、「事前提出物. 受験番号. 受験者氏名」とすること。なお、受験番号は半角数字とすること。

（例）事前提出物. 27001. 芸大和音

- ・PDF ファイルの提出期限は、令和 8 年 3 月 3 日（火）18 時 00 分 00 秒とする。

（特別な事情がなく、上記期限までに PDF ファイルのアップロードの完了がなかった場合は、受験を認めません。提出物の容量が大きい場合、アップロードが完了するまでに時間が要することがあります。余裕をもって提出してください。）

＜その他注意事項＞

- ・インターネット出願時に登録したメールアドレスで「@kcua. ac. jp」のドメインからのメールを受信できるように設定すること。
- ・可能であれば、キャリアメール（NTT ドコモ、ソフトバンク、au 等）以外のメールアドレスを使用することが望ましい。
- ・Dropbox の利用方法に関する問い合わせには一切応じません。

令和 8 年度（2026 年度）

音楽学部入学試験 第二次試験（音楽学専攻以外の専攻）

1 試験内容

専攻	音楽通論	聴音書取 (旋律・和声)	新曲視唱	コールユーブンゲン視唱 (全訳書第1巻より当日1曲指定)	副科ピアノ	ピアノ 新曲視奏
作曲専攻	●	●	●		●	
指揮専攻	●	●	●		●	
ピアノ専攻	●	●	●			●
弦楽専攻	●	●	●		●	
管・打楽専攻	●	●	●		●	
声楽専攻	●	●	●	●	●	

2 副科ピアノについて（作曲、指揮、弦楽、管・打楽、声楽）

副科ピアノの課題曲については、次のとおりとします。

- 1 音階：次の調性の中から同一調子記号による長調と短調を事前に指定する。

（音階指定は令和 8 年 2 月 12 日（木）以降に、出願時に登録しているメールアドレスに送付します。）

速度は♩=76M.M.以上。

ハ長調 ト長調 ニ長調 イ長調 ヘ長調 変ロ長調 変ホ長調
イ短調 ホ短調 ロ短調 嬰ヘ短調 ニ短調 ト短調 ハ短調

（注）ハノン第 39 番による。長調の音階は繰り返し演奏し、終止形をつけて終わる。

短調は、和声的及び旋律的短音階の両方を一度ずつ続けて演奏し、終止形をつけて終わる。

- 2 (A) J. S. Bach：平均律クラヴィーア曲集 第 1 巻より 第 9 番 ホ長調 BWV854

(B) J. S. Bach：2 声のインヴェンション BWV772～786 より 1 曲又はシンフォニア（3 声のインヴェンション）BWV787～801 より 1 曲を自由選択。ただし、インヴェンション第 10 番ト長調、シンフォニア第 5 番変ホ長調、シンフォニア第 6 番ホ長調を除く。

(C) F. Burgmüller：25 の練習曲 op.100 より第 6 番「進歩」ハ長調

（注）※作曲及び指揮専攻志願者は、上記 1 は必ず、2 は（A）（B）の中から 1 つを選択し、演奏すること。

※弦楽、管・打楽及び声楽専攻志願者は、上記 1 は必ず、2 は（A）（B）（C）の中から 1 つを選択し、演奏すること。

※全て暗譜で演奏すること。（繰り返しはしない。）

<動画の提出方法>

- ・Dropbox のファイルリクエスト機能により提出すること。

動画ファイルをアップロードするためのリンクを、令和 8 年 2 月 12 日（木）以降に出願時に登録しているメールアドレスに送付します。

メールで送付したリンクを開くとアップロード画面に移るので、提出したい動画ファイルを選択してアップロードしてください。

なお、動画ファイルのアップロードにあたり、Dropbox のアカウントを作成したり、アプリをインストールしたりする必要はありません。

メールが2月末までに届かない場合は、電話等により教務学生課入試担当まで問い合わせること。

- ・動画はピアノ専攻及び音楽学専攻志願者を除く受験者全員が提出すること。
- ・動画は mp4 形式で作成し、タイトルは、「副科ピアノ. 受験番号. 受験者氏名」とすること。

なお、受験番号は半角数字とすること。

(例) 副科ピアノ. 21001. 芸大和音

- ・動画の提出期限は、令和8年3月3日(火) 18時00分00秒とする。

(特別な事情がなく、上記期限までに PDF ファイルのアップロードの完了がなかった場合は、それ以降の試験の受験を認めません。提出物の容量が大きい場合、アップロードが完了するまでに時間が要することがあります。余裕をもって提出してください。)

＜動画について＞

- ・動画の収録においては、課題曲演奏前に受験番号を言うこと。なお、受験番号は動画で聞きとれるように、大きな声ではっきり言うこと。
- ・カメラアングルは固定し、演奏者の顔と手元が常に明確に映ること（全て暗譜で演奏すること）。
- ・動画は本学入学試験のために収録したものとし、編集や加工は一切禁止する。また、提出後の差し替え・変更は認めない。
- ・ビデオカメラに音声ボリュームを自動的に調節する機能がついている場合は、演奏の抑揚がなくなるため、使用しないこと。また、音量が極端に小さい、あるいは大きい、また雑音が入ったりしないように収録すること。
- ・映像と音声は同時に収録すること。映像と音声が一致していない場合や、映像や音声を加工したと判断した場合は、失格となる可能性があります。
- ・課題曲1・2はカメラを止めずに続けて順に演奏し、ひとつの動画に収録すること。

＜採点について＞

- ・採点は第一次試験合格者のみに対して行います。

＜その他注意事項＞

- ・インターネット出願登録時に登録したメールアドレスで「@kcua.ac.jp」のドメインからのメールを受信できるように設定すること。
- ・可能であれば、キャリアメール（NTT ドコモ、ソフトバンク、au 等）以外のメールアドレスを使用することが望ましい。
- ・動画の作成方法及び Dropbox の利用方法に関する問い合わせには一切応じません。

令和 8 年度（2026 年度）

音楽学部入学試験 第二次試験（音楽学専攻）

口頭試問（900点）

試験時間：1 人 35 分程度（事前提出物に基づいたプレゼンテーション（15 分）と質疑応答（20 分程度））

実施方法：プレゼンテーション形式は自由。

紙媒体の配布資料を使用する場合は、合計 5 部を各自で印刷して、当日持参すること。パソコンを用いてプレゼンテーションを行う場合には、PowerPoint、Google スライド、または PDF ファイルとして作成し、USB メモリに保存し、当日持参すること。パソコン、ディスプレイ（またはプロジェクター）、ケーブルは大学で用意する（持参したノートパソコンの使用も可能とするが、その場合も発表資料を保存した USB メモリを用意しておくこと）。

注意事項：控室や試験室等でプレゼンテーションと関連した音を出す必要がある場合は、事前に教務学生課入試担当に申し出ること。持参したノートパソコンを使用する場合には、HDMI ケーブルでディスプレイと接続できるように準備すること。大学で準備するパソコンの OS は Windows です。Windows では動作しないソフトウェア（Apple 社の Keynote 等）の使用を希望する場合は自身のノートパソコンを持参してください。その場合も、Windows で動作する形式に変換した発表資料（PowerPoint, Google スライド、または PDF）を保存した USB メモリを用意しておくこと。